

このコーナーでは、海外で日本語を教えるときに、教師が直面すると思われる問題をとりあげ、質問に答える形で、読者のみなさんの参考になる情報を提供していきます。

**Q** 会話のクラスでペアワークをしたいのですが、クラスの人数が多くて難しいです。こういう活動はしなければいけないのでしょうか。

**A** コミュニケーション能力を養成するためには、クラスでも実際のコミュニケーション活動（目的のある情報のやりとり）を行うことが必要です。そのためには、インタビューやロール・プレイなどの活動を行いますが、それは、これらの活動が、相手の発話を理解し、さらに質問したり行動したりといった目的のあるコミュニケーション活動になっているからです。これらの活動は、教師によって提示された文型を同じように繰り返すだけの練習とは大きくちがひ、相手の反応を確かめながらすすめていくものですから、基本的にはペアやグループで行うことが好ましいです。しかしながら、大人数クラスでは、クラスの混乱を避けながら活動をすすめていくための工夫が必要になります。

今回は、学習者同士の活動の中でペアワークを取り上げ、大人数クラスで行うための方法を考えてみたいと思います。

## ペアワークのいろいろ

大人数クラスでの学習者同士の活動形態を簡単にまとめてみましょう。

### 一斉型ペアワーク

クラス全体を2人ずつにわけて、それぞれが一斉に会話をします。

長所：学習者一人一人の発話量が多くなり、短い時間にたくさん練習できます。

欠点：クラス全体がうるさくなります。学習者全体の発話を教師が観察することがむずかしいです。

### 教師コントロール型ペアワーク

クラス全体をAとBの2つのグループにわけます。Aグループの1人がBグループの1人と会話をします。

長所：一度に話すのは2人だけなので、教師が学習活動を管理しやすいです。

欠点：①に比べると、学習者一人一人の練習量が少なくなります。

### 学習者発表型ペアワーク

通常はスピーチなどの発表によく使われるものですが、1人の学習者（A）がクラスの他のメンバー（B）と会話をします。

長所・欠点：②と同じです。

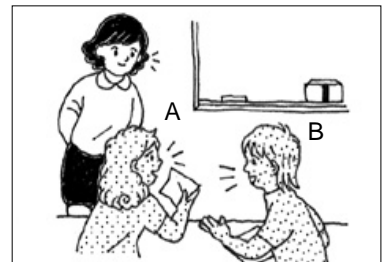
### グループ内ペアワーク

①や③の活動をグループ別に行うものです。図では、AとBが話し、他のメンバーは聞いています。

長所：学習者一人一人の発話量が②③より多いです。

欠点：②③よりも学習活動を管理するのがむずかしいです。

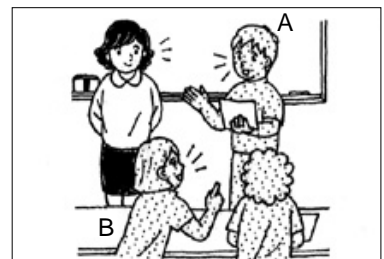
図①



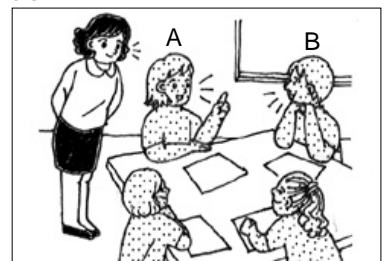
図②



図③



図④



## 大人数クラスでのペアワークの進め方

### 活動の流れを考える

大人数クラスで学習者同士の活動を行うには、図①～

④の活動形態を上手に組み合わせるとよいでしょう。すなわち②や③のような教師が学習を管理しやすい活動形態から、①のような学習者の自由度が高い活動形態へ段階をおって変えていくと、クラスの混乱が少なくなりま

- (1) 教師が活動の動機付けをします。活動に必要な語彙や表現を確認します。(教師がクラス全体に説明)
- (2) 教師が活動方法を説明したあとで、何人かの学習者にさせてみて、できるかどうか確認します。(図②③)
- (3) 学習者同士で自由に活動させます。(図①④)
- (4) 学習者に活動成果を発表させ、フィードバックを行います。(図②③)

学習者が(3)の活動が上手にできない場合は、(2)の段階に時間をかけ、(3)の活動を短くするとよいです。

### クラス全体を活動にまきこむ工夫をする

図②③のような活動形態で学習者同士の活動をする場合は、会話に参加していない学習者を退屈させないことが大切です。簡単な方法としては、他の人の会話の内容について質問するなど、いっしょに考えさせ活動にまきこむようにしましょう。

### 学習者に責任を持たせる

ペアワークを行うには、学習者同士が協力し、教師に厳しく管理されなくても責任を持って自分の学習が進められるようになることが必要です。そのために、誤りの訂正等をできるだけ学習者同士で行わせるとよいでしょう。

## 初級のペアワークの活動例

インフォメーション・ギャップを利用して存在表現の口頭練習を行ってみましょう。

- (1) 黒板に部屋の見取り図(窓、テーブル、いす等がある)をかき、学習者の部屋であると仮定する。(図⑤-1)
- (2) 教師は学習者全体に「部屋にほかになにがありますか」と質問し、学習者は想像して自由に答える。

- (3) 教師は学習者の答えから5つのものを選んで「～はどこにありますか」と質問する。学習者は、想像して「～は……にあります」を使って答える。教師は答えをきいて、それを絵にかき加えていく。(活動の動機付け、語彙や表現の確認)
- (4) 黒板の絵の5つのものを消し、見取り図だけにする。学習者は同じ絵をノートにかき、それぞれの絵に5つのものを好きなどころにかき加える。
- (5) 学習者2人(A、B)が前に出る。Aが5つのものをどこにかいたか(Aの部屋の絵)をあてるために、クラス全員が交代でAに質問する。BはAの答えをきいて黒板の絵に5つのものをかき加える。他の学習者も黒板の絵を見ながらいっしょに考える。(図⑤-2 活動方法の確認)
- (6) (5)の活動をペアで行う。5つのものはペアで自由に決めてもよい。(学習者同士の自由な活動)
- (7) いくつかのペアが発表する。(活動成果の発表)

### 図⑤



活動形態の工夫：(6)の一斉型ペアワークがむずかしいときは

- ・(5)を他の学習者を指名して繰り返す。
- ・1クラスを4～5人のグループにわける。その中の1人の絵をあてるために、他の学習者が交代で質問する。

### 参考文献：リソース集

Cross, David. (1995) Large Classes in Action. Prentice Hall.

活動形態を少し変えてみるとクラスの雰囲気が変わるかもしれません。このコーナーへの質問やご意見をお待ちしています。

担当：藤長がおる(日本語国際センター専任講師) \*32号から、担当者が変わりました。